

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-3 農林水産業の担い手の育成・確保
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 森上浩平	電話番号	0852-22-6860
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	就農促進活動事業		
目的	(1) 対象	就農相談者及び就農希望者	
	(2) 意図	効果的な就農相談及び的確な就農支援を実施し、就農促進を図る。	
事業概要	1. 青年農業者等育成センター就農推進事業 就農希望者の就農推進及び円滑な就農を支援するため、青年農業者等育成センターにおいて就農相談等広範な支援を行う。 2. 島根県就農推進事業 新規就農を促進するため、青年農業者等育成センターと連携し、就農支援活動を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 就農相談対応件数	目標値	650.0	1,500.0	1,500.0	1,500.0	1,500.0	件
		取組目標値						
	式・定義 青年農業者等育成センターでの相談件数+農業普及部における相談件数	実績値	1,871.0	1,768.0				
		達成率	287.9	117.9	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	17,853	17,763
うち一般財源(千円)	17,853	17,763

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・東京、大阪、広島といった都市部での就農相談会を28回開催し、本事業で設置した就農相談員が積極的に相談活動を実施した。
- ・就農相談後の県内現地案内や、研修先の紹介なども実施することにより、新規就農者の確保にも寄与することができた。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・相談件数が目標を超えることができています。
- ・実際に、この就農相談を経て就農した人が出てきており、新規就農者の確保に寄与することができた。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

農業従事者の高齢化、担い手不足の中、県内の農業・農村の維持・発展のために、新規就農者の確保・育成が現場から求められている。この新規就農者の確保のために、先ず入り口である就農相談を的確に行うこと、就農相談件数を増やすことが必要であるが、①就農希望者のニーズが多様化しており相談対応が難しくなってきた、②生活情報もセットで希望される就農希望者が増えてきている、③他県との競争が激化しており相談件数を増やすことが難しくなってきた、といった困った状況が出てきている。

②困っている状況が発生している「原因」

- ①農業・農村への関心が高まっており、就農希望者のニーズが多様化してきている。例えば、半農半Xに取り組みたい、有機農業に取り組みたいといった具体的な情報や体験の希望が増えてきている。
- ②就農情報だけでなく、住居や子育て環境等の生活情報をパッケージで提供し、欲しいというニーズが増えてきている。
- ③他県の新規就農の取り組みも強化されつつあり、就農相談者の確保について競争が激化しつつある。

③原因を解消するための「課題」

- ①多様化している就農希望者からのニーズに対応するため、市町村と連携し、就農相談の多い園芸品目や、半農半X、有機農業等の様々な農業スタイルと、生活情報等をパッケージで提案できるように取り組む必要がある。
- ②他県との競争が激化する中、都市部を中心に相談件数が増えるような工夫が必要。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ①就農・生活情報のパッケージ化の強化
 - ・市町村と連携し、就農希望者からニーズのある園芸品目や、半農半X、有機農業等のより具体的な就農情報とさらに、子育て環境等の生活情報をパッケージで紹介していく。こうした情報をリーフレットにまとめ、就農相談で活用し、就農希望者の多様なニーズに対応する。
- ②都市部での就農相談件数を増やす取り組みの推進
 - ・都市部で開催される国の「新農業人フェア」等は他県からの出展も多く相談件数を増やすことが難しくなってきた。
 - ・今後は、島根の特徴ある農業を紹介する独自の「しまねアグリセミナー」の開催方法についても定住サイドで実施しているUターンフェアとの共催や、そこで園芸農家や半農半X実践農家に実際来てもらい相談が直接できるブースを設置する等工夫する。